

# 民主化闘争情報

No. 1027  
2020年2月12日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

JR総連・JR東労組の瓦解が止まらない。この間JR東労組中央本部との対立を深めていた東京・水戸・八王子地本が中心となって2月10日に新たな労働組合「JR東日本輸送サービス労働組合（略称：JTSUE）」が結成され、JR東労組は分裂した。新労組の組織数は2千人超とのこと。翌日の朝刊には「JR東労組が分裂」という見出しで記事が掲載され、JR東労組内部の“お家騒動”が衆目に晒されることとなった。なお、“本家”のJR東労組は同じ2月10日に中央委員会を開催しており、同日に結成大会をぶつけてくるあたり、対立ここに極まれり、といった様相である。

## 水戸・東京・八王子地本など2千人超が脱退、新労組結成 分裂は対立の末か？それとも組織温存が目的？

さて、結成日当日には速やかに新労組のホームページが開設されており、同日の結成は周到なる用意の中で進んでいた様子が伺える。そこに掲載された結成宣言を見ると、「（JR東労組は）労働組合の役割と機能を放棄した存在になり果ててしまった」「決して企業犯罪に目をつぶり、病んだ現場を黙認することなく、元のような明るい職場と健全なJR東日本・グループ会社を取り戻し、組織強化・拡大を実現していこう」と、現JR東労組中央本部の姿勢を徹底して糾弾する態度を鮮明にしている。

こうした動きに対し、JR東労組はマスコミの取材に対して「分裂は組織破壊であり許せない。（スト計画の失敗を認めない）自らの主張が通らないからといって、今春闘を目前にした分裂には憤りを禁じ得ない」と、こちらも引く様子は微塵もない。

とまあ、ここまでの応酬合戦を見るにつけ、組織対立の向こう側に潜む何かを感じずにはいられないのは小生だけであろうか。どうしても過去に繰り返されてきた組織温存と「潜り込み戦術」をモットーとする彼ら特有の組織戦術が脳裏によぎるのである。

## 革マル派は過去に組織丸ごとJR連合に加入を求める事態も?!

2000年10月に起こった出来事を紐解いてみよう。JR総連・九州労から組織人員の7割を超える737名の組合員が突如脱退し、JR連合・JR九州労組に加入を企てた、いわゆる「九州労大量脱退事件」である。常識では考えられない奇怪な事象は、後に革マル派の「潜り込み戦術」だったことが判明した。この潜り込みは失敗に終わり、革マル派の機関紙「解放」も首謀者の坂入充氏を名指しで批判したのである。

JR東労組を分断し、双方の組織対立を演じることで組織温存を狙う・・・真実のほどは分かりかねるが、過去の事例からこうした類推が成り立つのである。

## 革マル派組織に対抗するために、速やかに真に民主的な労働組合勢力の拡大を!

いつまでこうした革マル派の蠢きを警戒しなければならないのだろうか。JR東日本において一日も早く職場を安定させ、社員・組合員、そして管理者も含めて、安心して意欲を持って働けることができる環境が必要ではなかろうか。だからこそJR東日本において、今まさに真に民主的な労働組合の勢力を拡大し、以て健全で強固な労使関係が職場の隅々まで行き渡ることが極めて重要なのである!